

AI共著論文誌創刊構想の実態と含意

エグゼクティブサマリー

日本語報道の「AIが共著者の論文専門誌 創刊へ」が指す対象は、日本生物物理学会が進める構想であり、2026年6月26日に学会が公式発表した5年事業「Biophysics and Physicobiology for AI 誌の創刊を目指して」である。もっとも、創刊誌の正式名称は現時点では未定で、公式発表で示されている誌名は仮称「BPPB for AI」にとどまる。独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の2026年度科研費「研究成果公開促進費（国際情報発信強化）」の採択を受け、母体誌 Biophysics and Physicobiology（BPPB）内に、AI科学者との共著論文を受け付ける常設カテゴリ“Research with AI Scientists”を設け、AI査読者・AI編集補助者の試行を経て、将来的な新誌創刊につなげる計画である。専用ウェブサイト、BPPB for AI固有の投稿規程、編集委員会名簿、初号論文リストは2026年7月2日時点で未記載である。¹

この計画の核心は、単に「AIを著者欄に載せる」ことではなく、AIが研究計画・執筆・査読・編集に関与する時代に、学会出版の制度を先回りして設計する点にある。学会自身は「国際的な情報発信力を維持・向上」し、「日本から国際的に新しい出版モデル」を提示することを目的としている。2026年3月には「著者がAI、編集部もAI」を問いとする公開シンポジウムを開催し、BPPB編集委員長、学会長、他学会誌編集長、AI研究者らが議論した。²

ただし、法的・倫理的には主流ガイドラインとの緊張が大きい。ICMJE、COPE、WAME、Nature Portfolio、Elsevierはいずれも、AIは責任・最終承認・法的主体性を持っていないため著者資格を満たさないという立場で一致している。他方、BPPB現行規程も、AIの実質的利用は謝辞・方法での開示を求め、AI生成図版を原則禁止し、外部生成AIへの原稿アップロードを査読者に禁じている。したがって、BPPB for AI が本当に「AI共著」を採るなら、既存の著者概念をどう再定義するかが最大の制度課題になる。³

事実確認

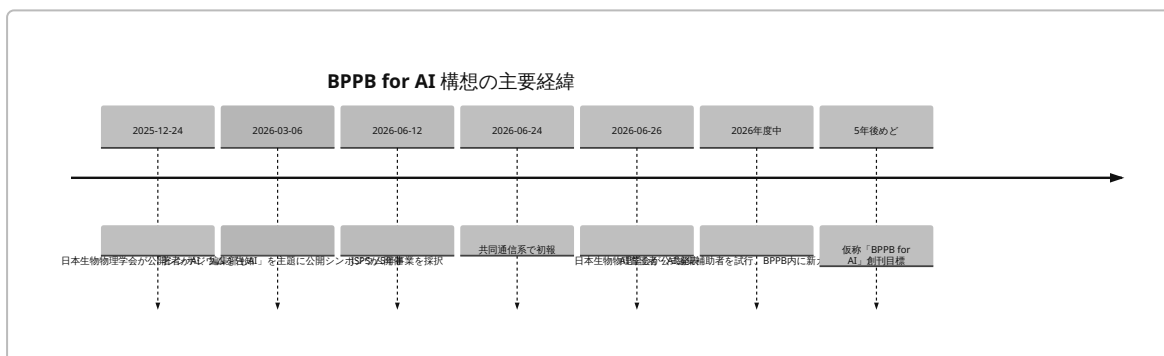
まず事実関係を整理すると、現時点で公表済みなのは「創刊準備の事業」であり、「新誌の確定仕様」ではない。共同通信系の初報は2026年6月24日、学会公式告知は2026年6月26日、JSPS採択日は2026年6月12日である。公式発表文には、BPPB誌内の新カテゴリ設置、AI査読者とAI編集補助者の導入試行、投稿論文・招待論文の発刊予定、そして仮称『BPPB for AI』誌への接続が明記されている。⁴

項目	公開状況	日付	公式URL	根拠
創刊の正式名称	未定。公開されている誌名は仮称「BPPB for AI」	2026-06-26	https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7499	学会公式は「新たな論文誌『BPPB for AI』誌（仮称）」と記載。 ⁵
事業名	「Biophysics and Physicobiology for AI 誌の創刊を目指して」	2026-06-12 採択、 2026-06-26 公表	https://www.jsp.go.jp/file/storage/kaken_13_index/r_08_seika_saitaku.pdf / https://www.biophys.jp/news/Lib/newsshow.php/7499	JSPS採択一覧と学会告知で一致。 ⁶

項目	公開状況	日付	公式URL	根拠
発行元	一般社団法人日本生物物理学会	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology.html	母体誌BPPBは学会公式誌。計画も学会事業。 ⁷
出版社	未記載	—	—	新誌としての出版社名は公開資料に見当たらない。現行BPPBの制作・登載者は中西印刷だが、新誌への継承は未公表。 ⁸
編集委員会メンバー	BPPB for AI固有名簿は未記載	—	—	参考までに現行BPPB編集委員長はHaruki Nakamura、現行編集委員会ページあり。 ⁹
公式サイトURL	新誌専用URLは未記載	—	関連公式: https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7499 / https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology.html	専用サイトは未確認。 ¹⁰
投稿規程	新誌固有規程は未記載。現行BPPB規程は公開	2025-12-19更新告知	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html	現行BPPBは非会員も投稿可、2名以上査読、AI利用方針あり。 ¹¹
著者資格	新誌は未記載。現行BPPBはAIを著者とは明記せず、実質利用は開示対象	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html	謝辞・方法での開示要求からみて、現行規程はAIを著者ではなくツール/貢献主体として扱う。 ¹²

項目	公開状況	日付	公式URL	根拠
AIの扱い	BPPB内に「Research with AI Scientists」常設予定。AI Reviewerも開発中	2026-06-26 / 2025-12-19	上記2URL	学会告知と現行規程が示す。 13
査読方針	現行BPPBは担当編集者+2名以上査読者。外部生成AIへの原稿投入禁止。内部AI Reviewer開発中	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html	新誌独自の査読方式は未記載。 14
初号掲載論文リスト	未刊行・未記載	—	—	公式発表は将来計画のみ。現時点で初号情報なし。 5

図版参照として、JSPSの採択一覧PDF該当ページには、「日本生物物理学会／代表理事・永井健治／Biophysics and Physicobiology for AI 誌の創刊を目指して」と明記されている。これは、報道ベースではなく、**公的資金採択文書**で構想の存在を裏づける一次資料である。 15



上の時系列からわかるのは、今回の話が突発的な広報案件ではなく、**少なくとも2025年末から制度設計が議論され、2026年度に実装実験へ移る中期計画**だという点である。 16

背景と目的

学会が掲げる狙いはかなり明確である。公式告知は、「**研究計画から論文執筆までを担う『AI科学者』が著者となる時代**」に先んじて対応すること、そして**国際的な情報発信力を維持・向上**することを目的とする。つまり、狙いは「奇をてらった話題づくり」よりも、**AI for Science がもたらす研究成果の出口設計**にある。

5

対象分野は、狭義にはBPPBの基盤分野である**生物物理学・physicobiology**だが、周辺には生命科学自動化、AIエージェント、研究自動化が広く接続されている。公開シンポジウムの登壇者は、BPPB編集委員長の

中村春木、学会長の永井健治に加え、理研のAI生物学研究者、ラボオートメーション研究者、AIエージェント企業の代表らで構成されており、「生物物理」×「研究自動化」×「学術出版設計」の交差領域を狙っていることが読み取れる。¹⁷

編集方針上の特徴は三つある。第一に、**AI科学者との共著論文を受け付ける常設カテゴリを既存誌に先行実装すること**。第二に、**AI Reviewer と AI編集補助者を secure / non-public な形で導入しようとしていること**。第三に、既存BPPBがもともと持つ**オープンアクセス、オープンデータ、データリポジトリ活用の方針を土台に、AI関与研究の検証可能性を高めようとしていること**である。¹⁸

「日本から国際的に新しい出版モデルを提示」⁵

「著者がAI、編集部もAI」¹⁹

法的・倫理的論点

最大の論点は、**著者資格の定義**である。ICMJEは著者資格を、構想・分析等への実質的寄与に加え、**最終版の承認と研究全体への説明責任**を含む4要件で定義している。AIはこのうち、とくに最終承認と説明責任を満たせないため、ICMJEは「AIやAI支援技術を著者・共著者として記載してはならない」と明記する。²⁰

COPE、WAME、Nature、Elsevierもほぼ同じ理屈だ。COPEは“**AI tools cannot meet the requirements for authorship.**”とし、Natureは“**do not currently satisfy our authorship criteria**”、Elsevierは著者責任は**human only**とする。WAMEも、チャットボットは最終承認・利益相反理解・法的署名・著作権主体性を持ってないので著者に含めるべきでないと述べる。したがって、BPPB for AI は、主流ルールへの単純適合ではなく、**それを乗り越える別制度の提示**を迫られる。²¹

著作権論点も二層ある。第一に、**論文本文や図版の生成物が第三者著作物を侵害しないか**という問題で、BPPB現行規程はこの点から**AI生成図版を厳格に禁止**している。第二に、AI自体を著者としたとき、**著作権帰属やライセンス同意の主体が誰か**という問題である。米国著作権局は、人間の表情的寄与が十分な場合にのみ保護があり得るとし、純粋AI生成物の登録には人間著作者性が必要と整理している。日本でも文化庁は、AIと著作権の考え方を公表しているが、これは**非拘束的整理**であり、侵害判断は個別事案に依存するとしている。²²

責任論では、“**AIが書いたから**”は**免責にならない**。ICMJEは、人間著者がAI利用部分についても正確性・完全性・非剽窃を担保しなければならないとする。BPPB現行規程も、AIの実質利用は謝辞で道具名・版情報を明示し、査読者は秘密保持のため外部生成AIへ原稿をアップロードしてはならないと定めている。つまり、現時点の国際標準は「AIを使うこと」自体を禁じるのではなく、**責任の所在を常に人間に固定する方向**にある。²³

学界と出版界の反応

日本の学界では、少なくとも無視ではなく**制度設計課題として真剣に受け止められている**。日本細胞生物学会、日本動物学会、日本生化学会は、いずれも日本生物物理学会の公開シンポジウムを告知し、学会誌の編集長・編集委員に強い関心と呼びかけた。これは、今回の構想が一学会内の奇策ではなく、**生命科学系学会誌全体の編集実務問題**として共有されていることを示す。²⁴

他方、国際出版・倫理コミュニティの反応は総じて慎重、あるいは否定的である。2023年以降、Nature、Science、ICMJE、COPE、WAME、Elsevier、JAMA Network はそろって、**AIの著者記載を禁じ、利用開示を求め、査読の機密保持を強化する方向に舵を切った**。JAMAも、AIツールを著者に含めない方針と透明な報告義務を強調している。今回のBPPB for AI 構想は、こうした流れの“**外側**”に位置する。²⁵

先行事例としては、2023年前後にChatGPTを共著者に入れた論文・プレプリントが少数出現したが、これには強い反発が起きた。Natureは少なくとも4本の論文・プレプリントでChatGPTが共著者表記されたと報じ、Nurse Education in Practiceでは、それに対抗する形で“ChatGPT as an author ... is wrong”という社説が出た。これは、「AI著者」はまだ通常化したのではなく、**例外的で論争的な逸脱**だったことを示す。

26

“AI tools cannot meet the requirements for authorship.” 27

“do not currently satisfy our authorship criteria” 28

“ChatGPT is fun, but not an author.” 29

実務的影響と比較分析

研究者実務への影響は、まず**投稿手続きの複雑化**で現れる。現行BPPBでは、軽微な英語修正や先行研究探索程度なら形式申告は不要だが、AIの実質的貢献がある場合は**謝辞にツール名と版情報を明記**しなければならない。研究方法としてAIを使う場合は、再現可能性の観点から方法節での記述が必要になる。したがって、将来のAI共著誌では、最低でも**利用開示・貢献記録・責任者指定**がさらに厳密になる可能性が高い。 30

査読面では、BPPBはすでに「**人間2名以上+担当編集者**」を基本にしつつ、内部AI Reviewerの開発を進めている。これは、完全自動査読ではなく**補助的AI査読**を志向していることを示す。一方で、Nature、JAMA、Scienceは、査読機密を理由に、査読者が外部LLMへ原稿を投入することを禁じている。したがって、今後の争点は「AI利用の可否」ではなく、**どのAIを、どのセキュリティ境界内で、誰の責任のもと使うか**へ移る。

31

引用・業績評価への影響はなお不透明だが、少なくとも**摩擦は避けにくい**。推論になるが、主要ガイドラインがAIの著者記載を認めていない以上、AI名義を含む論文は、人事評価・研究業績集計・引用慣行・投稿先互換性で不整合を起しやすい。資金面では、すでにJSPSが5年事業として公的資金を投じており、JST/CRDSやRoRIも、AIが研究システムや研究費審査を変える前提で報告書を整備している。したがって、編集・研究公正・研究支援の現場では、**AI監査、開示チェック、セキュア査読基盤、プロンプト記録管理**といった新しい実務が増える可能性が高い。 32

出版物名	AIの著者扱い	投稿規程要点	査読方式	発表年	ソースURL
BPPB for AI 構想	受理方向 。BPPB内に“Research with AI Scientists”常設予定。新誌は仮称	新誌固有規程は未記載。AI査読者・編集補助者を試行	未記載。ただしAI Reviewer 試行予定	2026	https://www.biophys.jp/news/Lib/newsshow.php/7499 5

出版物名	AIの著者扱い	投稿規程要点	査読方式	発表年	ソースURL
Biophysics and Physicobiology	AI著者は未明記。実質利用は謝辞/方法で開示	非会員投稿可、未発表論文、実質的AI利用は開示、AI生成図版禁止	担当編集者+査読者2名以上	2025-2026	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html ¹¹
Nature Portfolio	不可	LLM利用はMethods等で開示、AI copy-editingのみ例外、生成AI画像原則不可	査読者の外部AI投入禁止	2023	https://www.nature.com/nature-portfolio/editorial-policies/ai ²⁸
Science Journals	不可	不適切なAI利用で審査停止可	査読者はLLM等へ原稿投入不可	2023	https://www.science.org/content/page/science-journals-editorial-policies ³³
Elsevier journals	不可	AI利用は別建て宣言、方法での記述、画像利用も細分化	各誌規程によるが人間責任を前提	2023-2026	https://www.elsevier.com/about/policies-and-standards/generative-ai-policies-for-journals ³⁴
ICMJE Recommendations	不可	カバーレターと本文でAI利用開示、AIを主要ソースとして参照不可	査読者向けAI章あり	2023-2026	https://www.icmje.org/recommendations/ / https://www.icmje.org/recommendations/browse/artificial-intelligence/ai-use-by-authors.html ²⁰
WAME Recommendations	不可	ツール名・版・用途・クエリ開示、人間が全責任	編集者・査読者のAI使用も透明化推奨	2023	https://wame.org/page3.php?id=110 ³⁵

リスクと推奨

潜在的リスクは、第一に**責任の空洞化**である。AIを著者欄に載せても、誤り、捏造、差別的出力、虚偽引用、著作権侵害に対して最終的に誰が責任を負うのかが曖昧になれば、著者制度そのものが弱体化する。第二に**研究公正リスク**で、AI生成参考文献の幻覚、画像生成の権利侵害、査読機密漏えい、プロンプトインジェクションなどがある。第三に**制度互換性リスク**で、主流ガイドラインと異なるAI著者モデルが、投稿移行、索引化、評価制度で孤立する可能性がある。³⁶

そのうえで、編集部への実務的推奨は明確だ。**著者資格と貢献表示**を分離し、AIは原則として「著者」ではなく**機械貢献記録**の対象にすること、どうしてもAI共著を試すなら**人間の責任著者を唯一の法的窓口**に固定すること、そして**プロンプト・モデル版・出力履歴の保存**を投稿要件にすることである。加えて、図版は現行BPPB同様に厳格運用し、査読AIは外部SaaSではなく**閉域・監査可能な環境**に限定すべきだろう。これはCOPE、ICMJE、Nature、Elsevierが共有する「透明性・人間責任・機密保持」の原則を、挑戦的構想に合わせて再設計する発想である。³⁷

研究機関・資金提供者への推奨としては、**AI利用の開示義務を論文・研究費申請・査読の3場面で統一**することが重要だ。RoRIの“Funding by Algorithm”が示すように、研究費配分もすでにAI利用の責任設計を必要としている。BPPB for AI 構想は、出版だけでなく**研究評価全体の試金石**になりうる。したがって、研究機関はAI利用教育と監査基準を整え、資金提供者はAIを用いた申請作成・審査補助・成果物生成の範囲を明文化し、「**AIが関与した成果**」をどう数えるかを早めに定義すべきである。³⁸

参考情報

主要ソースは以下である。日本語・公式・一次情報を優先した。

種別	名称	日付	URL
公式告知	日本生物物理学会「Biophysics and Physicobiology for AI 誌の創刊を目指して」	2026-06-26	https://www.biophys.jp/news/Lib/newsshow.php/7499 ⁵
公的採択資料	JSPS 研究成果公開促進費採択一覧PDF	2026-06-12採択	https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_13_index/r_08_seika_saitaku.pdf ³⁹
母体誌公式	BPPB トップページ	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology.html ⁴⁰
投稿規程	BPPB Instructions for Authors	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html ¹¹

種別	名称	日付	URL
編集委員会	BPPB Editorial Board	掲載日未記載	https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology02.html 9
公式イベント	AI for Publication 2026 シンポジウム	2026-03-06	https://ai4pub2026.lasa.or.jp/ 17
一次報道	共同通信系初報	2026-06-24	https://www.nippon.com/ja/news/kd1442318983264257016/ 41
倫理指針	ICMJE Recommendations	2026閲覧	https://www.icmje.org/recommendations/ 20
倫理指針	WAME Chatbots, ChatGPT, and Scholarly Manuscripts	2023-05-31	https://wame.org/page3.php?id=110 35
倫理指針	COPE Authorship and AI tools	2023-02-13	https://publicationethics.org/guidance/cope-position/authorship-and-ai-tools 27
出版社方針	Nature Portfolio AI editorial policies	2023	https://www.nature.com/nature-portfolio/editorial-policies/ai 28
出版社方針	Elsevier generative AI policies for journals	2023-2026	https://www.elsevier.com/about/policies-and-standards/generative-ai-policies-for-journals 34
日本法政策	文化庁「AIと著作権について」	2024-03-15	https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html 42

総括すると、今回のニュースは「AIが論文を書く時代が来た」という単純な話ではない。日本生物物理学会が、主流ガイドラインと緊張関係を抱えつつも、AI時代の学術出版制度を先行実験しようとしているというのが、現時点で最も正確な理解である。現状の公開情報だけで断定できるのはここまでであり、新誌の正式名称、専用サイト、編集体制、投稿規程、初号内容は未記載である。 ⁴³

1 2 5 10 13 18 43 <https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7499>
<https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7499>

3 20 <https://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html>
<https://www.icmje.org/recommendations/browse/roles-and-responsibilities/defining-the-role-of-authors-and-contributors.html>

4 41 <https://www.nippon.com/ja/news/kd1442318983264257016/>
<https://www.nippon.com/ja/news/kd1442318983264257016/>

6 15 32 39 https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_13_index/r_08_seika_saitaku.pdf
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_13_index/r_08_seika_saitaku.pdf

7 40 https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology.html
https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology.html

8 <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/biophysico>
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/biophysico>

9 https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology02.html
https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology02.html

11 12 14 22 30 31 https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html
https://www.biophys.jp/biophysics_and_physicobiology03.html

16 <https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7209>
<https://www.biophys.jp/news/lib/newsshow.php/7209>

17 19 <https://ai4pub2026.lasa.or.jp/>
<https://ai4pub2026.lasa.or.jp/>

21 27 37 <https://publicationethics.org/guidance/cope-position/authorship-and-ai-tools>
<https://publicationethics.org/guidance/cope-position/authorship-and-ai-tools>

23 36 <https://www.icmje.org/recommendations/browse/artificial-intelligence/ai-use-by-authors.html>
<https://www.icmje.org/recommendations/browse/artificial-intelligence/ai-use-by-authors.html>

24 https://www.jscb.gr.jp/jscb/event_info/jscb_event_info-7251/
https://www.jscb.gr.jp/jscb/event_info/jscb_event_info-7251/

25 28 <https://www.nature.com/nature-portfolio/editorial-policies/ai>
<https://www.nature.com/nature-portfolio/editorial-policies/ai>

26 <https://www.nature.com/articles/d41586-023-00107-z>
<https://www.nature.com/articles/d41586-023-00107-z>

29 <https://www.science.org/doi/10.1126/science.adg7879>
<https://www.science.org/doi/10.1126/science.adg7879>

33 <https://www.science.org/content/page/science-journals-editorial-policies>
<https://www.science.org/content/page/science-journals-editorial-policies>

34 <https://www.elsevier.com/about/policies-and-standards/generative-ai-policies-for-journals>
<https://www.elsevier.com/about/policies-and-standards/generative-ai-policies-for-journals>

35 <https://wame.org/page3.php?id=110>
<https://wame.org/page3.php?id=110>

38 <https://researchonresearch.org/funding-by-algorithm/>
<https://researchonresearch.org/funding-by-algorithm/>

42 <https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>
<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/aiandcopyright.html>